

分類コード	X-1-1-1-04
保存期間	5年(令和10年12月31日まで)

秋本人安第32号 務第16号  
広第8号 地第5号  
刑企第3号 捜一第6号  
令和5年1月16日

各 所 属 長 殿

秋 田 県 警 察 本 部 長

高齢者虐待事案への適切な対応について（通達）

高齢者虐待事案については、高齢者虐待の防止、高齢者の養護者に対する支援等に関する法律（平成17年法律第124号。以下「法」という。）に基づき、「高齢者虐待事案への適切な対応について（通達）」（平成18年3月29日付け秋本生企第134号ほか。以下「旧通達」という。）により対応してきたところであるが、この度、高齢者虐待事案通報票等に係る公印の押印省略等所要の整備を行い、令和5年2月1日から下記のとおり対応することとしたので、事務処理上誤りのないようになされたい。また、法の制定目的を踏まえ、引き続き、適切な対応をされたい。

なお、旧通達は、1月31日をもって廃止する。

記

第1 認知時における適切な対応

1 市町村への通報（法第7条及び法第21条関係）

法第7条第1項では、養護者による高齢者虐待を受けたと思われる高齢者を発見した者は、当該高齢者の生命又は身体に重大な危険が生じている場合は、速やかにこれを市町村に通報しなければならないこととされている。また、同条第2項では、第1項に定める場合のほか、養護者による高齢者虐待を受けたと思われる高齢者を発見した者は、速やかにこれを市町村に通報するよう努めなければならないこととされている。

法第21条第2項では、養介護施設従事者等による高齢者虐待を受けたと思われる高齢者を発見した者は、当該高齢者の生命又は身体に重大な危険が生じている場合は、速やかにこれを市町村に通報しなければならないこととされている。また、同条第3項においては、同条第1項及び第2項に定める場合のほか、養介護施設従事者等による高齢者虐待を受けたと思われる高齢者を発見した者は、速やかにこれを市町村に通報するよう努めなければならないこととされている。

したがって、各警察署においては、警察安全相談、高齢者を被害者とする事案等の捜査、急訴事案や保護の取扱い等の各種警察活動に際し、高齢者虐待事案を認知した場合には、速やかに市町村に通報すること。

なお、法第17条第1項の規定により、委託を受けた地域包括支援センターが通報受理業務を行うことがあるため、各警察署において市町村及び地域包括支援センターと協議の上、警察が認知した事案の通報先をあらかじめ定めておくこと。

(1) 通報対象となる事案

原則として、警察が認知した全ての高齢者虐待事案が対象となる。

なお、次のような場合にも通報対象となる。

ア 虐待行為があったことの明確な裏付けができない場合

通報は、「高齢者虐待を受けたと思われる高齢者」について行うものである。虐待行為を裏付ける具体的な証拠がない場合であっても、被害高齢者や関係者の申出内容等から判断して、高齢者虐待が行われた可能性があるとして判断できる事案であれば、通報の対象とすること。

イ 加害者が養護者に該当するか判明しない場合

加害者を特定していても、当該加害者が養護者に当たるかどうかの判断が困難な場合がある。このようなときには、加害者が被害高齢者と同居している場合には、高齢者虐待事案とみなして市町村又は地域包括支援センター（以下「市町村等」という。）に通報をすること。また、加害者が親族である場合には、当該加害者が養護者に当たらないときも、高齢者虐待事案の早期発見・早期対応の観点から、通報の対象とすること（例えば、同居していない親族による事案や同居している孫による事案などが考えられる。）。

ウ 認知症に起因する被害妄想が疑われる場合

認知症が疑われる高齢者から虐待を受けているとの申出があった場合については、警察において被害高齢者が認知症であるか否かを判断することが困難であるほか、仮に申出が認知症に起因する被害妄想によるものであっても市町村等において福祉的な観点から必要な対応を行う場合もあるため、通報の対象とすること。

エ 配偶者からの暴力事案に該当する場合

虐待行為が高齢者の配偶者から行われた場合は、高齢者虐待事案であるとともに、配偶者からの暴力事案にも該当する。このような事案については、高齢者虐待事案として市町村等に通報するとともに、「配偶者からの暴力相談等対応票」の作成等配偶者からの暴力事案としての対応も行うこと。

なお、被害高齢者の保護が必要な場合に、市町村等と秋田県配偶者暴力相談支援センターのいずれかに引き継ぐかは、被害高齢者の年齢、要望等を踏まえて、事案に応じて判断すること。

(2) 通報要領

警察で認知した高齢者虐待事案については、当該事案の内容に応じて管轄する警察署の生活安全課から市町村等に通報するものとする。通報先部署名、電話番号等は、あらかじめ市町村等に確認しておくこととし、特に、休日・夜間において確実に連絡を取ることができるよう、市町村等に申し入れておくこと。

通報は、原則として、「高齢者虐待事案通報票」（別記様式第1号）を送付して行うものとし、急を要する場合には、電話で行い、事後に同通報票を送付すること。また、通報時点では詳細が判明していない事項は「不詳」と記載し、調査に時間を

要することにより通報が遅れることのないようにすること。

高齢者虐待事案通報票の記載要領については、別添「高齢者虐待事案通報票記載に当たっての留意事項」を参照すること。

### (3) 通報後の措置状況の把握

通報した事案については、市町村等に措置結果を連絡するよう依頼しておくこと。

なお、通報後1か月を経過しても措置結果の連絡がないときには、市町村等に対して状況を確認すること。

## 2 通報以外の措置

高齢者虐待事案については、市町村等への通報と並行して事案の緊急性・重大性を迅速に判断した上で、事件化すべき事案については、関係機関の告発等を待つことなく、可能な限り速やかに必要な捜査を行い、捜査を契機として高齢者を救出保護すること。また、事件化しない場合であっても、事案に応じて加害者へ指導・警告するなどの必要な措置を講ずること。

## 第2 警察署長に対する援助依頼への対応（法第12条関係）

### 1 制度の趣旨

法第12条第1項では、市町村長は、高齢者の住所又は居所への立入調査に際し、必要があると認めるときは警察署長の援助を求めることができることとされている。警察署長の行う援助とは、市町村長による職務執行が円滑に実施できるようにする目的で、警察が、警察法、警察官職務執行法等の法律により与えられている任務と権限に基づいて行う措置である。

したがって、警察官は、市町村長の権限行使の補助者ではなく、調査業務そのものの補助を行うことは適当ではない。

### 2 援助の手続

援助に当たっては、緊急の場合を除き、市町村長から「高齢者虐待事案に係る援助依頼書」（別記様式第2号）の提出を受け、速やかに市町村長と事前協議を行い、対応の方法、役割分担等を検討した上で、事案に応じた適切な援助に努めること。事前協議の窓口は、各警察署の生活安全課において行うこととするが、実際の援助の際は、必要に応じて他部門にも協力を求めること。

### 3 援助の要件

法第12条第3項では、高齢者の生命又は身体の安全を確保するため必要と認めるときに警察が援助を行うこととされているので、援助の依頼があった場合には、市町村が行う法第9条第1項に規定する事実確認のための措置状況を確認し、その内容によって援助を行うか否かを判断すること。また、援助依頼を受理したが、援助を行わないものとした場合には、その理由や経緯等を記録しておくこと。

## 第3 その他

### 1 関係部門間の連携

高齢者虐待事案への対応に当たっては、生活安全部門、刑事部門、地域部門、被害者支援部門等関係部門間の連携を密にすること。

### 2 関係機関等との連携

市町村等を始め、民生委員等関係機関・団体等との連携を強化し、被害高齢者の立

場に立った的確な措置が講じられるようにすること。

なお、地域包括支援センターにおいては、高齢者虐待事案に関わる関係機関等を構成員とする「高齢者虐待防止ネットワーク」を構築することとしているので、市町村等から各警察署に対して当該ネットワークへの参加依頼がなされた場合には、積極的に応じること。

### 3 指導、教養の実施

所属長は、高齢者虐待事案へ適切に対応するため、所属職員に対して法の内容等についての指導、教養を行うこと。

別記様式第1号

<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <span>第</span> <span>号</span> </div> <p style="text-align: center; margin: 5px 0;">高齢者虐待事案通報票</p> <div style="display: flex; justify-content: flex-end; margin-bottom: 10px;"> <span>年</span> <span>月</span> <span>日</span> </div> <p style="margin-bottom: 10px;">〇〇市(町、村)長 殿</p> <p style="text-align: right; margin-bottom: 10px;">警察署長</p> <p>次のとおり高齢者虐待を受けたと思われる高齢者を発見したので、通報します。</p>
---

発見年月日		年	月	日	
発見の経緯					
高 齢 者	(ふりがな) 氏名				<input type="checkbox"/> 男 ・ <input type="checkbox"/> 女
	生年月日	年	月	日生 ( 歳)	
	住 所				
	電 話	( )	-	番	
	職 業 等				
養 護 者 等	(ふりがな) 氏名				<input type="checkbox"/> 男 ・ <input type="checkbox"/> 女
	生年月日	年	月	日生 ( 歳)	
	住 所	<input type="checkbox"/> 高齢者と同じ <input type="checkbox"/> その他 ( )			
	電 話	( )	-	番	
	職 業 等				
	高齢者との 関 係	<input type="checkbox"/> 配偶者 <input type="checkbox"/> 子 <input type="checkbox"/> 子の配偶者 <input type="checkbox"/> 孫 <input type="checkbox"/> その他親族 ( ) <input type="checkbox"/> その他 ( )			
虐 待 の 状 況	行 為 類 型	<input type="checkbox"/> 身体的虐待 <input type="checkbox"/> 養護の著しい怠り <input type="checkbox"/> 心理的虐待 <input type="checkbox"/> 性的虐待 <input type="checkbox"/> 経済的虐待			
	虐待の内容				
参 考 事 項					
担当者・連絡先	警察署 課				
	電話 ( )	-	番	内線	

別記様式第2号

<p style="margin: 0;">第 号</p> <p style="margin: 0;">高齢者虐待事案に係る援助依頼書</p> <p style="margin: 0;">年 月 日</p> <p style="margin: 0;">警察署長 殿</p> <p style="margin: 0; text-align: right;">〇 〇 市(町、村)長</p> <p style="margin: 10px 0 0 0;">高齢者虐待の防止、高齢者の養護に対する支援等に関する法律第12条第1項及び同条第2項の規定により、次のとおり援助を依頼します。</p>
--

依頼事項	日時	年 月 日 時 分 ~ 時 分
	場所	
援助方法	<input type="checkbox"/> 調査の立会い <input type="checkbox"/> 周辺での待機 <input type="checkbox"/> その他 ( )	
高 齢 者	(ふりがな) 氏 名	<input type="checkbox"/> 男 ・ <input type="checkbox"/> 女
	生年月日	年 月 日生 ( 歳)
	住 所	<input type="checkbox"/> 上記援助依頼場所に同じ <input type="checkbox"/> その他 ( )
	電 話	( ) - 番
	職 業 等	
養 護 者 等	(ふりがな) 氏 名	<input type="checkbox"/> 男 ・ <input type="checkbox"/> 女
	生年月日	年 月 日生 ( 歳)
	住 所	<input type="checkbox"/> 上記援助依頼場所に同じ <input type="checkbox"/> その他 ( )
	電 話	( ) - 番
	職 業 等	
虐待の状況	行為類型	<input type="checkbox"/> 身体的虐待 <input type="checkbox"/> 養護の著しい怠り <input type="checkbox"/> 心理的虐待 <input type="checkbox"/> 性的虐待 <input type="checkbox"/> 経済的虐待
	虐待の内容	
高齢者の生命又は身体に重大な危険が生じていると認める理由		
警察の援助を必要とする理由		
担当者・連絡先	所属・役職	氏名
	電話 ( ) - 番	内線
	携帯電話 - 番	番

## 別添

### 高齢者虐待事案通報票記載に当たっての留意事項

#### 1 「発見年月日」欄

高齢者虐待事案を認知した日を記載すること。高齢者虐待とは無関係な相談として対応している過程で、高齢者虐待事案であることが判明した場合には、初回の相談受理日ではなく、高齢者虐待事案ではないかとの認識が警察において生じた日を発見年月日とすること。

#### 2 「発見の経緯」欄

通報者を秘匿する必要がある場合には、「近隣住民からの通報」、「家族・親族からの通報」、「関係機関からの通報」、「施設関係者からの通報」等と記載するなどにより、通報者氏名は記載しないこととして差し支えない。

#### 3 「高齢者」欄

被害高齢者から聴取できない場合は、親族等から聴取するなどにより記載すること。

#### 4 「養護者等」欄

加害者が養護者に当たるかどうか判明しない場合や加害者が養護者に当たらない親族である場合についても、「養護者等」欄に記載すること。

配偶者には、事実上の婚姻関係にある場合を含む。同棲相手や交際相手は、配偶者には含まないので、これらが加害者である場合には、「□その他（ ）」にチェックし、（ ）内に「同棲相手」「交際相手」と記載すること。

養介護施設従事者等による高齢者虐待（法第2条第5項第1号及び同項第2号）の場合は、「□その他（ ）」にチェックし、（ ）内には「介護職員」「看護師」「ホームヘルパー」等簡潔に記載し、加害者の所属する施設や派遣元事業者等の名称等については「虐待の内容」欄の記載内容の中に盛り込むこととすること。

#### 5 「行為類型」欄

複数選択が可能であり、該当するもの全てにチェックすること。なお、「身体的虐待」とは法第2条第4項第1号イに該当する行為、「養護の著しい怠り」とは同号ロに該当する行為、「心理的虐待」とは同号ハに該当する行為、「性的虐待」とは同号ニに該当する行為、「経済的虐待」とは同項第2号に該当する行為をいう。

#### 6 「虐待の内容」欄

「別紙記載のとおり」と記載の上、別紙を添付することとしても差し支えない。

#### 7 「参考事項」欄

被害高齢者の言動、警察において講じた措置等市町村において高齢者虐待事案として対処する際に参考となると思われるような事項があれば、記載すること。

#### 8 「担当者・連絡先」欄

事案取扱者（相談受理者、現場臨場者等）ではなく、市町村への通報の窓口となる生活安全部門の担当者について記載すること。

#### 9 公印の押印

差出人に係る公印の押印は、省略することができる。